

解答プリント「中学社会・地理的分野」

■発展プリント

8 世界から見た日本②／九州地方

【評価の観点】 ㊦：思考・判断・表現 ㊧：技能 ㊨：知識・理解

解答例	解説
<p>㊦ (1) a 国内〔日本〕 ㊦ b 海外</p> <p>㊨ (2) WTO</p>	<p>㊦ (1) アメリカを例にすると、1970年代、日本車がアメリカに大量に輸出されたことで、アメリカの自動車産業は大きな打撃を受け、自動車産業に従事する労働者による日本車の破壊などが報じられた。1985年には日本製品の輸出増加などが原因となり、アメリカは大幅な貿易赤字となり、日本とアメリカとの間で貿易摩擦が激しくなった。これに対して、日本の自動車メーカーはアメリカへの輸出を自主規制するとともに、アメリカに工場をつくり、そこで生産することにより、貿易摩擦を回避しようとした。</p> <p>(2) World Trade Organizationの略称である。1995年にGATT〔関税及び貿易に関する一般協定〕を発展解消させて成立した。本部はスイスのジュネーブに置かれている。</p>
<p>㊧ (1) 福岡県</p> <p>㊧ (2) 北九州工業地域</p> <p>㊦ (3) 豊かな自然や独自の文化を生かした観光業がさかんだから。(27字、下線部の語句をすべて使う)</p> <p>㊦ (4) A 鹿児島 ㊦ B 宮崎</p>	<p>㊦ (1) 人口密度は人口を面積で割ることにより求められる。1km²あたりの人口密度は、福岡県は1020.1人、佐賀県は347.1人、長崎県は345.2人、熊本県は244.8人、大分県は187.9人、宮崎県は146.2人、鹿児島県は184.9人、沖縄県は615.6人となる。</p> <p>(2) 製造品出荷額が最も多いのは福岡県である。福岡県には、1901年に開業した官営八幡製鉄所を中心として発展した北九州工業地域がある。北九州工業地域は、かつては京浜、中京、阪神とともに四大工業地帯の1つに数えられ、鉄鋼生産により、日本の産業発展を支えたが、1960年以降のエネルギー改革から、生産量が大きく落ちこんだ。</p> <p>(3) 表には示されていないが、沖縄県の第三次産業就業者の割合は東京都について全国第2位の高さとなっている。これは、沖縄県の面積の多くをアメリカ軍用地が占めていることも大きく関係している。また、第二次産業の割合は全国で最も低くなっている。</p> <p>(4) 鹿児島県・宮崎県には火山灰がたい積してできたシラス台地が広く分布している。シラス台地は水もちが悪く、土地がやせていることから、作物の栽培には適していない。そのため、両県では畜産業が発達した。ここでの畜産業は企業による大規模なものが多く、輸入飼料を使い、大量の肉を生産している。</p>